

## 第２回南相馬市復興有識者会議 意見のまとめ

### ■有識者会議で挙げられた意見・提案

#### 1. 復興ビジョン・復興計画

- 市の財産である市民に笑顔があふれるような復興計画としてほしい
- 基本となるのは市民ひとり一人の復興過程への参画
- 各分野の計画策定と総体としての復興計画を策定すべき
- まちのあり方、イメージしやすいものに絞って計画をつくることが重要
- 不安は「病院・雇用・放射能」の3つに集約される

#### 2. 緊急対応

- 何よりも緊急性の高い対応が重要

#### 3. 市民生活復興

- 市民の健康維持と雇用確保の面からの議論が重要
- 急性期病院は資金の確保、市立総合病院の重点化や市内病院の再編が必要
- 慢性期病院についての対処がなされていない
- 医師・看護師が不足しており対策が必要
- 放射線対策の人的支援と支援体制の充実が望まれる
- 人は居場所と仲間が欲しいもの、仮設住宅に関する対策が必要
- 市民を守り抜いた先生方の力で市立医療研究センターの創立を目指せる
- 生活地の除染、田畑の除塩を行い、生活を再建することが必要
- 歴史と文化、人間性を生かしたエココミュニティの形成が望まれる

#### 4. 経済復興

- 復興計画の中核は雇用創出のための産業振興計画(農林水産業の復興と活性化)とすべき
- 風評被害に対してはマスコミの力を借り安全だということを理論的に説明していけばよい
- 被災にあつて大変だったことを記述し、リアリティを感じさせるとよい
- 地域の優秀な人材を生かせるように、人材育成を強化したらよい
- 自然エネルギーの創出による脱原発の力を生み出すことが重要
- 再生エネルギーの利用と循環型社会形成が望まれる
- パートナー企業による産業復興を進めるとともにその企業ニーズを反映すべき
- 世界の英知を集める再生可能エネルギーセンターをつくってほしい
- 電力をつくってきた福島県の有利さを生かすべき
- 復興には資金調達のための組織をつくることが重要
- 地場産業が活気づく新たな企業誘致とすべき
- 住宅再建とまちづくり、中心市街地の活性化については飯田市のまちづくり会社に学んでほしい

## 5. 防災まちづくり

- コンパクト市街地と公共交通網の形成が望まれる
- 防災都市への復興土地利用と復興準備団地を提案する
- 中心市街地の再生のための歩いてまたは自転車で暮らせるまちを目指すべき
- 津波から守る堤防や防潮林は行ってみたい場所にしてほしい

## 6. 人づくり・子育て環境の充実

- 3区の歴史的・文化的な背景が異なる個性を認め合う教育を行ってほしい
- 市民が復興していく姿を伝える教育こそが次世代をつくる
- 歴史・文化に関する調査の支援をしたい
- 命を守る研究所(危機管理研究所)をつくって伝えることが重要ではないか

## 7. 土地利用

- 市民を巻き込んだ議論をして、市民の理解が得られる土地利用(農業再生ゾーン、再生可能エネルギーゾーンなど)にしてほしい
- 縦の土地利用だけでなく土地利用の連携を図る土地利用計画に転換していくべき
- 防潮林、津波被害のモニュメント、再生エネルギー基地といったものをサイクリングロードで繋ぐ土地利用の可能性もある
- 土地の活用に関しては民間主導のまちづくり会社で解決できるのではないか
- 海岸風景を鎮魂の場とする震災メモリアルパークをつくるほか、その他の土地利用のトータルデザインを考えていくとよい
- 津波がくる頻度や現実をみた中で土地利用を考えるべき
- ここに住まう方が何を望んでいるか、どういう生活をしたいかを一番に考えるべき
- 海側の土地利用は再生可能エネルギーや鎮魂の場としての機能を融合できる
- 福祉と医療、住むことと働くことなどミックスを考えた住まい方、土地利用を考えていくことが重要
- 戻りたいと思える魅力のある南相馬にしていくべき
- 新しい南相馬の海岸風景を創り出していけばよい
- 土地利用ゾーニングのイメージを正確に記載した方がよい

## 1. 復興ビジョン・復興計画

### ○市の財産である市民に笑顔があふれるような復興計画としてほしい

- ・南相馬市は震災に加えて原子力災害への対応など、状況が厳しい中、市民、市の方がよくがんばっている。例えば、You Tube に市長が出られたことなど、市民の笑顔がこぼれるようなことをして行ってほしい。
- ・「復旧」は震災直後の対応として生き延びる対応であるが、「復興」は市民一人ひとり違うだろう。その一人ひとりが描く将来像を実現して行ってほしい。

### ○基本となるのは市民ひとり一人の復興過程への参画

- ・だれが、だれに、どの位のスパンで、どのような財源でということ考えた計画を策定すると実行性が高まる。官民協働が一番重要。これにはいろいろなプランが複合的に重なっていないと再興できない。具体的に誰がどうするのかということも含めて、市民はここまでできる、だから、行政はここをお願いしたい、というような整理が必要。その上で、事業ベースのプライオリティをつける必要がある。

### ○各分野の計画策定と総体としての復興計画を策定すべき

- ・復興計画の策定にあたり、震災前の計画をベースに復興要素を加えた各分野別の計画を策定し、その総体を南相馬市総合計画、土地利用計画に落とし込むことで、生きた復興計画策定できる。
- ・また、1つ1つの計画を、もう一度、再興型に変えることが重要である。
- ・自治法の改正により、基本構想（総合計画）が市町村の策定義務から外れた。したがって、今までのものを土台として、新しい復興の基本計画、再興計画というものを、この5年間でこうやるというものを打ち出すことも可能である。

### ○まちのあり方、イメージしやすいものに絞って計画をつくることが重要

- ・南相馬市は、馬の文化が根づいており、まちのあり方を示す一つは、馬も心地よく住めるまちということではないか。野馬追という伝統行事をおこなっており、馬のことを考えているところでイメージをつくっていったらよい。また、二宮尊徳の教えが息づくまちであることもイメージが湧きやすい。これらに絞った考え方は大きな方向性を示すのではないか。

### ○不安は「病院・雇用・放射能」の3つに集約される

- ・南相馬市はいろいろな問題に斬新に取り組んでいる。住民の避難については、3つのパターンがあるという。ひとつには一家全員が避難、ひとつにはお年寄りだけ避難、ひとつには子どもと若い世代だけが避難というパターンだ。お年寄りが避難する理由は病院がないためだ。子どもと若い世代が避難するのはやはり除染が進まないことと、雇用の問題によるものだ。
- ・南相馬市は放射線量がそれ程高くない地域もある。同じような放射線量であっても、他地域よりも不安が大きくなっているようだ。
- ・その理由は、食べ物にあるようだ。食べ者に対する誤解をメディアの協力で解いていてもらいたい。東北大から出された論文によると福島県の米にセシウムが入らない理由が科

学的に解明されている。

## 2. 緊急対応

### ○何よりも緊急性の高い対応が重要

- ・復旧、復興、そして再興といくつものレベルがある。復旧の段階が進んでいると思うが、もう一回、緊急性の高い対応とそうでないものについて整理する必要がある。また、緊急時避難準備区域の解除にかかる復旧計画との整合を図る必要がある。

## 3. 市民生活復興

### ○市民の健康維持と雇用確保の面からの議論が重要

- ・市民の健康維持と雇用確保の面から議論すべき。千葉県鴨川市にある亀田総合病院はドクター450人と東京大学の雇用数とほぼ同じ、キャッシュフローでは鴨川の一般会計・特別会計を合わせたものの1.5倍もあり、病院を中心に経済圏ができています。

### ○急性期病院は資金の確保、市立総合病院の重点化や市内病院の再編が必要

- ・けがや風邪でかかる病院を急性期病院というが、多くの患者が通う病院には雇用確保の側面がある。震災の際、30km圏内というのは、急救車もドクターヘリも来なかった。食事がなくなっても、とどまった方々により医療が行われた。そういう意味では南相馬市の先生方はカリスマ性もあり素晴らしい。今後、市立総合病院の重点化や市内病院の再編も必要である。

### ○慢性期病院についての対応がなされていない

- ・介護老人保健施設の議論が全くなされていない。実態の正確な把握がなされていない。短期的には大きな医療法人や介護の法人を招き入れる以外にない。長期的にはこちらで養成することになる。

### ○医師・看護師が不足しており対策が必要

- ・南相馬市でも医師が不足している。メディアに情報提供を行うと、外から経営者がやってきて現地で雇用する可能性が十分ある。

### ○放射線対策の人的支援と支援体制の充実が望まれる

- ・南相馬市で測定した4,000人は、福島県立医大の4,000人に匹敵する。南相馬市での対応は素晴らしい。また、民間企業が小児の尿検査を無料で行っていたが、大きな社会貢献である。

### ○人は居場所と仲間が欲しいもの、仮設住宅に関する対策が必要

- ・2～3週間前に相馬市の仮設住宅で1週間健康診断を行った。仮設住宅が終わるのが不安だ、復興住宅をどうしてほしいと話がでた。やはり人間というのは居場所と仲間が必要である。

### ○市民を守り抜いた先生方の力で市立医療研究センターの創立を目指す

- ・南相馬市には、市民を守り抜いたカリスマとなりうる先生方がいる。この規模の自治体に

はないことで発信力がある。このような力に支えられ、南相馬に根ざした市民の健康を守る研究センターができるだろう。非常に状況は厳しいとは思いますが、この半年間で、ほんとに市の方々が御尽力なさって、被災地復興のモデルのような存在になられたこと、心から敬意を表す。

#### ○生活地の除染、田畑の除塩を行い、生活を再建することが必要

- ・食料、廃棄物、排水、バイオマス燃料など、疑われているものすべてについて、放射能の風評被害から食物の安全を保障するトレーサビリティを市、大学、病院、研究所等で行い、常に好評して相互に監視していくことが重要である。
- ・2年という仮設住宅の整備は短すぎて、10年、もっと長い仮設住宅、あるいは復興住宅の必要性がある。仮設・復興住宅といえども、環境基本性能を満足したエコロジーに配慮した住宅であるべき。また、コミュニティの見守りや分かち合いを可能とする集まりの場のある住宅にすべき。

#### ○歴史と文化、人間性を生かしたエココミュニティの形成が望まれる

- ・コミュニティの結束力の再確認を行い、もったいないエコライフスタイルのコミュニティによる支援や畜産、農のある生活スタイルを目指すべき。

## 4. 経済復興

#### ○復興計画の中核は雇用創出のための産業振興計画（農林水産業の復興と活性化）とすべき

- ・社会に対してどんな企業であるべきかという新しいスタイルのことも含めながら、どう復興にかかわるのか考えていけばよい。
- ・農林水産業は今までの財産がある。特に畜産をどうするかによって、全てのキーが解けるのではないかと。放射能の問題を逆手にとって、完璧に放射能の検査した結果を全部表示するのは。これしか入ってない、全く入っていないのだと表示する。そうしたら、他に絶対勝てるはずである。

#### ○風評被害に対してはマスコミの力を借り安全だということを理論的に説明していけばよい

- ・福島の桃はとてもおいしかったが、長野の山梨の桃が1個300円に対して、福島の桃は99円だった。儲けも何もあったものではない。りんごは一体どうなるのか。このような被害を払拭するためにもマスコミの力を借りたい。安全だということを理論的に説明してほしい。

#### ○被災にあって大変だったことを記述しリアリティを感じさせるとよい

- ・産業の部分は悩みながら書いていることが伺える。もう少し方向性を打ち出すため、リアリティを感じさせるものを加えるとよい。
- ・そのために、これだけの被災にあって非常に大変だったにもかかわらず、誘致企業が今後も市内にとどまりたい意向であると言書いただけでもがんばっていることが伝わる。

#### ○地域の優秀な人材を生かせるように、人材育成を強化したらよい

- ・誘致企業が南相馬市にとどまる理由は優秀な人材がいることである。今後も誘致だけでな

く、オンザジョブトレーニングなどで地元の人材を供給し、育成していくことが重要。卒業した子どもやいったん地域を出たこともを地元に戻せるようなことを、もう少し強化するとよい。

- ・空いている土地があり、除染が終われば、優秀な人材が多いこの地域には企業がくるだろう。

#### ○自然エネルギーの創出による脱原発の力を生み出すことが重要

- ・南相馬市には真野ダム1,000kW、石神発電所1,700kWという水力発電所がある。一方、浜通りのため池や農業用水でのダムを活用した水力発電の可能性もある。試算によると高の倉ダム（南相馬市）の500kW、横川ダム（南相馬市）や鉄山ダム（南相馬市）の1,000kW程度のエネルギーが作れる。
- ・風力発電の可能性として、飯館と南相馬との間が考えられる。海岸沿いの林の中に風力発電をつくるという考え方もある。
- ・浸水して放棄せざるを得ない農地の活用として希望を失わないための考え方として、経済的なポテンシャルを形成することができる太陽光発電の可能性もある。1km四方100haで約5万kWの発電が可能となり、2億円以上の収入がある計算となる。
- ・洋上発電は世界的に非常に活発になってきている。日本も機運が高まっている。この地域の洋上50km先によい風があり、5GWの風力発電の可能性もある。波力発電も1～5GWの可能性もある。

#### ○再生エネルギーの利用と循環型社会形成が望まれる

- ・生活廃棄物の再利用という観点から、バイオマスエネルギーによる循環型都市構造をつくりだすことができる。ウィーンの街の真ん中にあるこういうごみの発電所がかなりのエネルギーをつくり出している。ごみ処理、汚水・汚泥、家畜フン尿、木質バイオマス、間伐材、“ひまわり”や“なたね”による発電を試算した。

#### ○パートナー企業による産業復興を進めるとともにその企業ニーズを反映すべき

- ・声をかけている企業が、南相馬市のパートナー企業として参加し、ここに新しい地場産業をつくるということになっている。幾つかの企業は既に、9月行われた市の企業応募に参加し、新しい工場団地に工場をつくりたいと手を挙げている。
- ・企業がほしいものとして工業港がある。この地域には相馬港しかないので、火力発電所の港や真野川漁港に工業の荷物も入れるようにできないか。工場団地、関東地域、あるいは世界の国から直接、材料を運び込む工業港が望まれている。

#### ○世界の英知を集める再生可能エネルギーセンターをつくってほしい

- ・知人のオーストリア政府からNPOが寄付をしたいということが、再生可能エネルギーセンターをつくるという方向で進められている。具体化しつつあるものの、どれだけのエネルギーをつくるべきか議論はしていく必要がある。資料には既に1000万kW位がつくり出せる。さまざまな方面に働きかけをしてはどうか。

#### ○電力をつくってきた福島県の有利さを生かすべき

- ・福島県は、近代以降電力を一生懸命つくってきた地域。何もない山奥で、風力で電気をつ

くっていく上では、電源立地地域としての合意形成の容易さなど圧倒的な有利さがある。

#### ○復興には資金調達のための組織をつくることが重要

- ・いろいろな機関、団体、企業等が、これから社会貢献も含めて、ファンドや基金のような組織をつくって、資金面での復興を支援していく必要がある。

#### ○地場産業が活気づく新たな企業誘致とすべき

- ・新たな企業誘致は、現在ある地場産業や企業が、さらにプラスになるような企業誘致をすることが重要。やはりクラスター形成みたいなのをしながら、1つの大きな塊になって、そこがまずさらに大きく受注できるような企業を誘致してることが望ましい。
- ・細かな部分に手を入れながら、まとめながら動きができるような仕組みづくりというのが、必要になってくる。
- ・市民のそういった団体の方々等のいろいろな力を、これから集めていく必要がある。

#### ○住宅再建とまちづくり、中心市街地の活性化については飯田市のまちづくり会社に学んでいけばよい

- ・まちづくりには個人のライフスタイルをどのように転換するかということ。
- ・行政でやるのではなくて、自分たちで納得のいく仕組みというのを作り上げていく必要がある。
- ・住宅再建支援とまちづくりについては難しいところもあるが、まちづくり会社を見学してきてはどうか。
- ・飯田市のまちづくり会社の場合は、無配当で、市民が出資している。転出しない、住み残る、これが大前提となっている。それから、すべてのものを文化の風呂敷で包んでいこうという考え方である。そのほかにも約束はあるが、みんなで約束しながら住み替えを行っていった。要するに、中心市街地に住み替えよう。真ん中に集まって住もう。そのためにはリンゴ並木があって、公園的なものもあってという風に、いろいろなものがミックスしているところにしようとして再構築していった。
- ・今後のまちづくりを考えると、どの程度まで、住民と誰が協働して、どの範囲まで市がやるのか、記述していく必要がある。
- ・計画には、自分たちで復興するというニュアンスを書き加えるほうがいい。その1つの典型的な具体例がまちづくり会社である。

## 5. 防災まちづくり

#### ○コンパクトな市街地と公共交通網の形成が望まれる

- ・南北の交通網がずたずたに分断されている状況を東西の道路の幅員を広げてアクセス性を高めた幹線道路網を再生し、バスなどの公共交通による利便性を高めたルートを形成することが望まれる。

#### ○防災都市への復興土地利用と復興住宅団地を提案する

- ・道路網の交差部分にはきちんと除染した団地をつくり、人が住めるようにして、そこから10年、20年、かけて東方面を復興していくことを提案する。

### ○中心市街地の再生のための歩いてまたは自転車で暮らせるまちを目指すべき

- ・全国的にコンパクトシティ、コンパクト化といわれているが、災害があったところでは中心市街地をもっとよくしていく必要がある。
- ・交通網をしっかりと整備し、車に頼らない、歩いてまたは自転車で暮らせるまちを目指すべき。

### ○津波から守る堤防や防潮林は行ってみたい場所にしてほしい

- ・400年に1度の津波のために高い堤防をつくって、日常生活では親しめない場所にしてしまうことはよくない。海は恐ろしいものだけではない。
- ・高さだけではなくて、林の作り方などで工夫して、行ってみたい場所になったらよいと思う。
- ・万が一のことに備えて備え過ぎて、近づきがたい場所になってしまうというのは残念なこと。

## 6. 人づくり・子育て環境の充実

### ○3区の歴史的・文化的な背景が異なる個性を認め合う教育を行ってほしい

- ・道徳教育の充実とあるが、南相馬市の場合には小高、原町、鹿島と3つの歴史的・文化的な背景が異なった地域が一緒になっている。南相馬市としての文化的な融合化とアイデンティティというのがうまくできる前にこの震災にあったため、道徳教育よりも、文化的な背景をきちんと学校教育の中で取り入れながら、お互いの個性を認め合うような中でやわらかいアイデンティティをつくっていくような方向が望ましい。

### ○市民が復興していく姿を伝える教育こそが次世代をつくる

- ・子どもは親の背中を見て育つ。市民が復興・再興に向けて努力されている姿を子どもたちはきっと見ている。これを教育の中で位置づけていただけませんか。そして市民の復興する姿を記録して、次世代につなげてほしい。

### ○歴史・文化に関する調査の支援をしたい

- ・例えば、20km圏内にある小高神社の被災状況は大変厳しくSOSをいただいている。今後、文化庁では専門家の文化調査が行われることも考えられる。県北のほうにはこちらの出身の研究員が何人もいて、みな心を痛めており、何とか一緒に働きたいと思っている。応援団として駆けつけるので、調査する場合、是非手を挙げてほしい。

### ○命を守る研究所（危機管理研究所）をつくって伝えることが重要ではないか

- ・震災で政府の思考停止が起き、情報が全くきていないところに人が放置されたり、放射線が強いところに避難させてしまったりという事態が引き起こされた。南相馬市で起きたことは、ある意味命の軽視であろう。ひと時、命がないがしろにされたといえる。
- ・想定外のことが起きたときに、パニックが起きて人が放置され、それを救って歩いた人もいる。どういう人がそれらを助けていったのか。救おうと思ったが、強制的に避難させられた人もいるだろう。そのあたりをきちんと全て記録して研究する研究所があるべき。危機管理研究所、愛称「命を守る研究所」をつくってはどうか。市民の心が少し癒されるの



ではないか。放っておかれたということに対する怒りも解けるのではないかと思う。

## 7. 土地利用

### ○市民を巻き込んだ議論をして、市民の理解が得られる土地利用（農業再生ゾーン、再生可能エネルギーゾーンなど）にしてほしい

- ・仙台の方から海岸を歩いているが、明治20年代以降の干拓によって水田地帯になったところが、震災で泥の海や潟に戻ってしまった。ここを改めて農地に復活して、潮抜きをして放射能の除染までしてということには、余りに膨大な予算と労力を要するため、無理なのではないか。仮に農地に戻したとしても、ここをもう一度、農業を行う方たちがどのくらい戻ってくるのだろうか。しかし、今回歩いてみて、だいぶ風景は戻ってきているので、個別の条件を確認できれば、農地として農業再生ゾーンが可能だろう。
- ・市民の意向を反映し、再生可能エネルギーゾーンを設定できればよい。
- ・大きなビジョンを市民と共有できるようになった時、いろいろなアイデアやサポート体制が築くことができる。
- ・相馬市との境について、相馬側は農地のまま、南相馬市側が風力基地になったら大変なことになるのではないかと思う。隣接自治体との調整も必要ではないか。

### ○縦の土地利用だけでなく土地利用の連携を図る土地利用計画に転換していくべき

- ・3つの区はそれぞれに市街地があり、特色もそれぞれ、風土の違いもあるが、1つになっていく、ということが可能な土地利用にすべき。
- ・どこに移転するかという話もあるが、最終的には、個人のライフスタイルをどのように再生できるか丁寧に対応することによって、そこに人が住み続けられるかどうかにつながる。住み替えについては、民間の力を入れるとよい。
- ・土地や財産を転換する時は、それを少しでもパブリックなものに置き換えながら、そこに住むことへのこだわりを市民の方に持ってもらうことが重要。これを土地利用の検討の際に、関係者と一緒に行う。そこに住む人を増やしていくチャンスである。自分がそこに根をおろしてライフスタイルを考えていくときにバプリシティなことも一緒に入れるしくみを市民が考えていくとよい。

### ○防潮林、津波被害のモニュメント、再生エネルギー基地といったものをサイクリングロードで繋ぐ土地利用の可能性もある

- ・震災や津波をモニュメントで記憶に残すことができないかと考えていた。サイクリングが趣味のサイクリストが集まるという観点で考えると、防潮林から山間部までサイクリングロードを通し、防潮林に風力発電の風車を配置し、再生エネルギーを生み出すものにする。これは、観光にもつながる。土地利用を総合的に考えるとよい。
- ・南相馬市には“波”があるということでサーフィンのために来る人たちもおり、趣味という視点で土地利用を考えることもできる。

### ○土地の活用に関しては民間主導のまちづくり会社で解決できるのではないか

- ・飯田市のように、民間主導、市民主導のまちづくり会社をつくって、その人たちに運営し

てもらえるのではないか。企業・市民に問いかけて住宅の手当てなどやっている人に参画してもらってはどうか。

- ・市長に9月初めに環境未来都市の申請の提案をした。私も応援したいと伝えた。

### ○海岸風景を鎮魂の場とする震災メモリアルパークをつくるほか、その他の土地利用のトータルデザインを考えていくとよい

- ・海岸風景という言葉はよい言葉だと思う。震災メモリアルパークや海岸防災林、自然エネルギー基地ということがばらばらに出てきている。これらをトータルにデザインする眼差しを加えた方がよい。
- ・震災メモリアルパークを仮につくるとすると、人が行かなくなり、たちまち寂れていってしまうとなると本当に寂しい。災害の記憶が目の前で崩れていくようなメモリアルパークでは意味が逆になってしまう。この災害の記憶を何度でも反芻しながら反省をして、新しい南相馬市をつくろうという思いになれる施策と未来へのビジョンを紡ぐことができるような場にすべき。そのために何か必要か、デザイナーが必要だと思う。
- ・資料の記述を読んで、南相馬市は観光を信じていないと思った。瀬戸内海の豊島は、産業廃棄物の島だったが、アートによって、処分場が観光客の来る場所が変わった。瀬戸内海の芸術祭では、豊島を含めて何10万人もの人たちが訪れて歩く島になった。
- ・海辺の風景、海岸風景というものを、鎮魂の場である、瞑想の場である、記憶を語り継いでいく場であるといった、さまざまな機能も含めながら、例えばアートの施設なり空間なりにする。すると、そこに人が訪れ、観光にやってくる循環ができるのではないか。
- ・安藤忠雄さんが「鎮魂の森」を提案した。大切なテーマだと思う。
- ・「海岸防災林」となっているが、単なる防災林ではなくて、例えば「鎮魂の森」のようなものとして、たくさんの人たちが参加して1本1本植えるなど、デザインすればよい。風力も風車もその景観の中にきちんと埋め込んで、美しい海岸風景としてつukれないだろうか。
- ・震災と原発の事故をくぐり抜けて立ち直ろうとしている、再生、再興していこうとしている南相馬市らしい新たな海岸風景といったものを目に見える形でそこに提示することができたら、大きな意味がある。
- ・海岸を鎮魂と瞑想の場として、しかも、美しい、今まで見たことがないような海岸の風景のようなものとして再生することはできないだろうか。

### ○津波がくる頻度や現実をみた中で土地利用を考えるべき

- ・海岸を鎮魂の場にする話、公園をつくる話、クリーンエネルギーをつくる話は別だと思う。三陸海岸のように20～30年に一度津波が来るところと、400年に一度くるところと議論が違えらう。
- ・クリーンエネルギーについては、世界中が競争するので簡単に勝てるとは思えない。かなりチャレンジングな話だと思う。

### ○ここに住もう方が何を望んでいるか、どういう生活をしたいかを一番に考えるべき

- ・ここに住んでいる人が、本当は何が好きか、考えたらよいだろう。仮設住宅の健診で、漁

業の方が元気だった。コウナゴの漁獲高は1日最高100万円だという。アオノリも高値で取り引きされるとのこと。ここにお住まいの方々が何を望んで、どういう生活をしたいかがまず一番。

- ・公園にしても、クリーンエネルギーについても何でもいいと思うが、整備にあたってはそれなりの厳しい状況がある。東京に晴海ふ頭というものがあり、昔はデートのカップルがたくさんいたが、横にお台場公園ができた瞬間、がらがらになった。

#### ○海側の土地利用は再生可能エネルギーや鎮魂の場としての機能を融合できる

- ・海岸線あたりに住んでいる人たちが犠牲になっていることを考えると、現在、再生可能エネルギーゾーンの幅はもっと太いベルトの方がよいのではないかと思っている。
- ・鎮魂と再生エネルギーは融合した土地利用を図れると思う。
- ・相馬市との境は、海側と山側の環境が違った。南相馬市の考え方での再生可能エネルギーゾーンをそのまま北側にも広げるかということについては、1つ1つ調査し住んでいる方の意向を聞きながら進める問題だと思う。

#### ○福祉と医療、住むことと働くことなどミックスをした住み方、土地利用を考えていくことが重要

- ・何らかの障害を持った人が避難してきた。これからどのような住みを形成するかという際、ミックスという考え方が重要になる。福祉と医療が一番の根幹である。住むこと働くことをどのように調和させるかも重要である。

#### ○戻りたいと思える魅力のある南相馬にしていくべき

- ・今年も飯館村は中学生をドイツに送った。今年この環境の中で実施したことは、少し驚いた。恐らく反対も結構あったのではないかと思うが、飯館にいればああいう体験ができるというのは大きな魅力である。駆け引きにも近いものがあるが、それなら戻りたいというような、そういうことも考えてもいい。

#### ○新しい南相馬の海岸風景を創り出していけばよい

- ・鎮魂の話を含めて、まだ行方不明の方たちがかなり海へ流されていらっしゃるというのが多いのではないかと思う。このような方たちの魂を含めて、海をどうするのかということ、やはり何らかの表明をして、海に対して私たちはこういう姿勢をつくるのだということ示すべき。
- ・私としては、自然エネルギーを含めて、海岸に全体としての新しい風景をつくり出すということをしていけばよい。
- ・海岸に4月には何もなかった。全く泥の風景だった。その後、6月には、ハマヒルガオが咲いていた。すばらしい生命力だと感心した。こういう災害にもめげずに立派に花を咲かせるのが自然の力。海の力も含めて、何らかの自然の力や、それと対峙してきた人間の力があるのだと思う。
- ・南相馬の砂浜はすばらしいレクリエーションの場でもあった。そういうところを踏まえて、何らかの新しい海岸風景として南相馬の風景が変わり、これは南相馬でなければできなかったというようなものにしていけるのではないか。

○土地利用ゾーニングのイメージを正確に記載した方がよい

- ・常磐自動車道の山側にも再生エネルギーゾーンがあるので、市民の見方を意識して書き込みをしておいた方がよい。